

# 第56回 秋田県多喜二祭

2021年 **2月20日(土)**

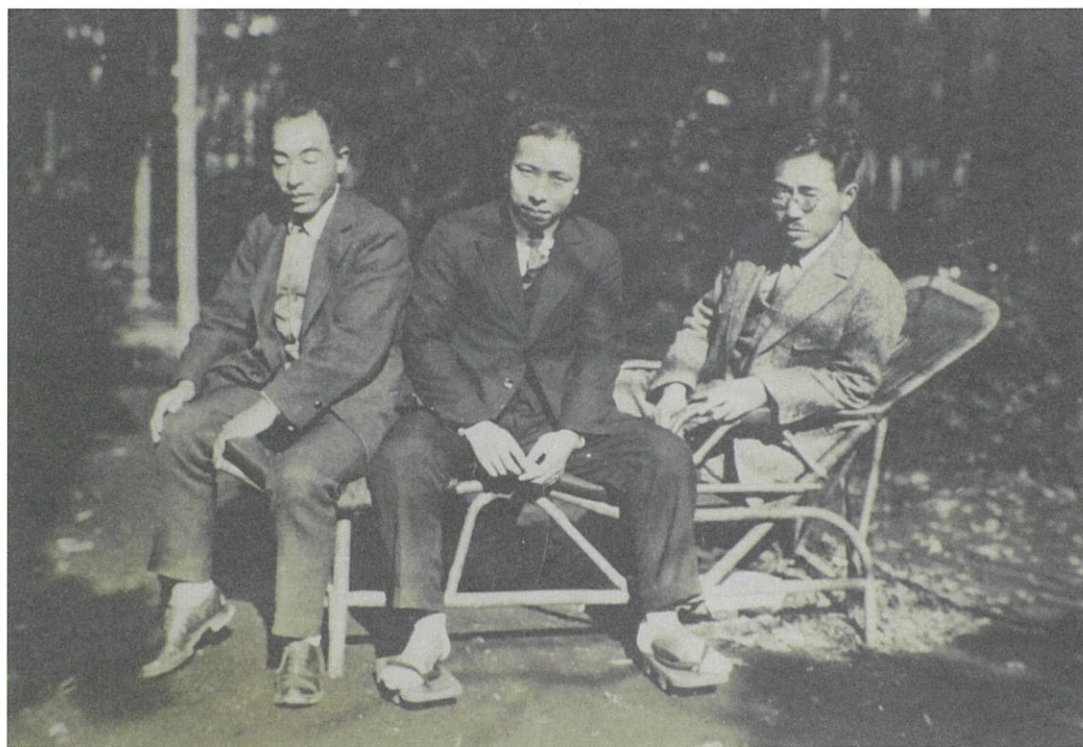
- 時間 13:00~
- 会場 **秋田市文化会館** 小ホール
- 参加費 999円



プロレタリア文学運動の先駆けと言われる雑誌「種蒔く人」

1921年(大正10年)2月、小牧近江・金子洋文・今野賢三らが中心となり、反戦平和・人道主義的革新思想を基調として土崎で創刊された。

創刊100年目を迎える今、反戦・平和・平等の思想を多喜二の今日を考える。



右から、小牧近江、金子洋文、今野賢三(一九二六年)

## 記念講演

### 多喜二と「種蒔く人」百年

—小牧近江と「クラルテ」を介して—

講師 文学博士 北条常久さん

## プログラム

- 秋田合唱団
- 多喜二祭賞発表
- 作品朗読
- 記念講演

主催 秋田県多喜二祭実行委員会

## 第 56 回秋田県多喜二祭にあたって

私たちは小林多喜二の生涯と文学的業績を顕彰し、文学のみならずすぐれた人間性、不当な支配権力と闘った不屈の闘志など、多喜二の全生涯から学び広めることを目的に半世紀を超えて多喜二祭を開催してきました。

第 56 回の記念講演は日本近代文学研究者・北条常久氏です。演題は「多喜二と『種蒔く人』百年—小牧近江と「クラルテ」を介して」です。今年には 1921 年（大正 10 年）2 月、種蒔く人「土崎版」創刊百年にあたります。フランスからの帰国時、小牧近江に恩師バリュビュスは「日本でのクラルテ運動を」と固く手を握りしめますが、『種蒔く人』創刊はその実践でありました。

多喜二は小樽高商在学時アンリ・バリビュスに傾倒し翻訳もしています。さらに卒業論文の「扉」にバリビュスの小説『クラルテ』の一節「此の世には一つの神が存在する・・・真理という神だ」と誌しました。

同年、社会人となって島田正策・蒔田栄一・片岡良一らと同人誌『クラルテ』を創刊。関東大震災で大きな困難に直面した『種蒔く人』—日本のクラルテ運動—継承の熱意を示しました。

今般日本学術会議への政治介入が大きな社会問題となっています。政治権力に左右されない学問の自律的な成長と発展こそが、文化と科学の発展をもたらします。科学が政治に従属し、戦争遂行に動員された時代の到来を許さない立場からも今次多喜二祭への特段のご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げます。

### 記

- 1、 第 56 回秋田県多喜二祭の意義を深め、多喜二祭へ足を運んでいただきたいこと。
- 2、 協賛金に是非ご協力をお願いしたいこと。

2021 年 新春

秋田県多喜二祭実行委員長 工藤一紘

感染対策にご協力をお願いします。

※ 会場にはマスク着用にてご来場下さい。※ 手の消毒をして入場して下さい。

※ 会場入口にて検温します。異常な場合は入場をお断りします。

問合せ / 多喜二祭事務局 ☎ 090-6454-4768 (工藤)